（別紙・見本）

分かりやすいように『赤字』で見本を記入しています。消してご使用下さい。

当書式をそのままご利用頂いても、御自身で設定頂いても構いません。

記入してあるフォントや文字サイズは削除してください。

タイトル～キーワードまでは全て中央揃えです。

新潟県士会員の言語聴覚療法

サブタイトル

＜キーワード＞

キーワードは「Keyword：」の後に３つご記入下さい。

＜空欄＞

空欄には何も記入せず、1行空けて下さい。

（1行空欄）

新作　業子

新作なじらね会病院

KeyWords：新潟　ST 素敵

（1行空欄）

ここからが本文の書きだしになります。

あああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああ・・・・

＜本文＞

ここからが本文の書きだしになります。

本文部分の書式設定や抄録締切は、削除して下さい。

家族に寄り添い、方針決定を医療介護の連携で現実化できた症例

（1行空欄）

堂井真理¹，川村邦雄²，齋藤優希³

¹総合リハビリテーションセンター・みどり病院リハビリテーション部　言語聴覚療法部門，

²総合リハビリテーションセンター・みどり病院脳神経内科，³介護老人保健施設緑樹苑，

KeyWords：方針決定　在宅 栄養

（1行空欄）

ここからが本文の書きだしになります。

【背景・目的】在院日数の短縮化・退院支援の促進により栄養手段の選択は早期に迫られることが多いが，その時点で決断することに躊躇し結論を出せないこともある．今回，回復期病棟入院中には決断・選択が行えず，退院後の老人保健施設（以下老健）入所中に外部の連携機関と協力しながら食支援連携を行い，在宅生活に繋ぐことが出来た症例を経験したので報告する．

【症例】67歳，女性,左被殻出血発症後59病日にリハビリテーション目的に当院へ転院．既往歴：2型糖尿病，高血圧，脂質異常症．

【経過と結果】回復期リハ病棟にて150日訓練するもADL全介助，藤島のグレード４.栄養は経鼻経管を主とし，家族の希望にて1日1食経口からゼリー食を摂取するお楽しみ程度のレベルであった．介護力の問題から老健に入所となったが，入所中も在宅復帰を希望されSTを中心としたリハスタッフによる積極的な嚥下評価と直接的嚥下訓練を継続的に実施した．評価には新潟市口腔保健福祉センター歯科医師の往診事業を活用しVE検査を，VF検査を当院で実施し医療介護連携を図り進めた．胃瘻造設決意までには時間を要したが，425病日に胃瘻造設に至り519病日に在宅復帰となった．また在宅でも食べ続けることが出来るよう訪問リハ・ショートステイを利用し連携を図った．

【まとめ】日常生活を把握する施設スタッフと外部の歯科専門職や医療機関が適切な嚥下機能の評価を繰り返し行い，安心できる在宅生活を過ごせるように多職種で検討し続けたことが在宅復帰に繋がったと考えられた．また胃瘻の選択の受け入れについては様々な考えがあり，意思決定のプロセスは難しい．納得できる選択が行えるかどうかは本人の意思確認・日頃からのよりよく生きるための話し合い・自分が受けたい医療について事前に相談し合える環境であることが重要である．

タイトル：MSゴシック、14P

サブタイトル：MSゴシック、12P

氏名：MSゴシック、10.5P

所属：MSゴシック、10.5P

KeyWords：MSゴシック、10.5P、3つ

（1行空欄）

本文部分の書式：

フォント／MS明朝、10.5P

文字数　／1500字以内

図や写真は掲載不可